

徳島県知事 殿

申請者 住所 徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字地廻り巻96-4
氏名 校長 板東 敬治



徳島県環境学習実践モデル事業実績報告書

取り組み名	マイクロプラスチック汚染を考える～一本のペットボトルから～	
実施主体	名 称	鳴門市瀬戸中学校
	代 表 者 名	校長 板東 敬治
	主たる事務所の所在地	徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字地廻り巻96-4
	規 約 等	
連絡先	職 名	教諭
	担 当 者 名	加藤 由起子
	電 話	088-688-0033
	F A X	088-688-2838
	メ ー ル	seto-jhs@mh.pikara.ne.jp
開始・終了	令和2年5月～令和3年2月	
計画実施の概要	<p>(1) 概要 生活に身近な海を取り上げ、海を汚すプラスチックごみをなくすにはどうすればよいか考えた。まず、プラスチックの歴史や原料について調査した。そして、プラスチックの基本情報を把握したうえで、プラスチックごみをなくすための具体的な解決法をグループで考え、発表した。</p> <p>(2) 成果及び評価 生徒は、捨てられたプラスチックごみを日常的に見て問題意識を持っていたが、実態を調査したり、議論したりするうちに、プラスチックごみが生活になくてはならないものだという事に気づいた。そして、問題の根本には、受益者である人間がプラスチックを適切に処理できておらず、自然環境に流出させていることである、という結論に達した。このことから、生徒一人一人が、この問題の解決に結びつく行動を具体的に考え実行した。また、成果を模造紙5枚にまとめ、鳴門市立図書館で掲示し、来館者から意見や感想をいただいた。</p> <p>(3) 反省と今後の対応策 環境アドバイザーの村田先生の講演会を開催したこと以外に、体験的な活動が十分にできなかったということが反省点である。今後は、学習が進むにしたがって、フィールドワークや専門家の意見を聞く機会、クリーンセンター、リサイクルセンターの見学などの活動を積極的に行う必要があると考えている。</p> <p>(4) スーパーバイザーの派遣回数実績 令和2年2月 環境アドバイザー 村田勝夫先生による講義</p>	

※A4判用紙1枚（片面）、縦使い、横書きで作成のこと。

別に、「取り組み期間における学習計画実施結果表」、「資料・教材等の種類・額の一覧」について、それぞれA4判用紙1枚（片面）に作成し、添付すること。

様式第1号（第5条関係）

取り組み期間における学習実施結果表

月	学 習 活 動
R2 2	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境問題」について関心をもち、特にプラスチックごみに注目した。 ・WHOの報告書と海洋のマイクロプラスチック問題を結びつけて考えた。 ・環境アドバイザー村田先生による講演会を行った。 ・海岸の砂のろ過実験から、自分の身近にプラスチックごみが多く存在することに気づいた。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「海のマイクロプラスチック問題を解決したい」というテーマを掲げ、第一段階の調べ学習を行った。 ・生徒一人一人がテーマについて疑問を挙げ、生徒が最も興味をもったものについて、インターネットや新聞記事、書籍等で調べた。 例：プラスチックとはそもそもどのようなものか なぜプラスチックが発明されたのか プラスチックが環境に与える影響について マイクロプラスチックの動物への影響 る過とはどのようなものか ・調べ学習をするうえで、信頼できる情報やサイトはどのようなものかを学んだ。 ・調査は、出典や真偽を確認しながら進めた。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の調査でわかったことを、第一回調査として冊子にまとめた。その冊子を全員で読みあい、さらに疑問を出して、第二回調査をした。その後、第二回レポートとしてまとめた。ここまでは、プラスチックの原料や歴史、プラスチック汚染の実態など、プラスチックごみ問題についての基本的調査である。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・第一回、第二回の調査をふまえて、プラスチックごみ問題を解決する方法を個人で考えた。その後、同じような解決法を考えた生徒同士が集まり、グループになって解決法を追究した。 例：ポイ捨てを罰する法律を作る プラスチックごみを集めて太陽にぶつけて処理する プラスチックを分解する生物を探す バイオマスプラスチックを使う プラスチックを捨てない生活をする ゴミ箱を設置してプラスチックが自然環境に流出するのを防ぐ
9	<ul style="list-style-type: none"> ・解決法の中には、宇宙に関する知識、法律に関する知識など、専門的な知識が必要な場合があり、その都度理科の先生にインタビューしたり、論文を検索したりするなどした。 ・調査の途中で、中間報告会を開き、意見交換をした。他のグループの調べていることに興味があれば、その都度教師と相談しながらグループを変更して探究を進めた。報告会では、友達の質問から、新しい考えが生まれたり、追究するべき課題が見えてきたりした。
10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会で指摘された新たな点について、再度追加の調査を行った。実現可能性も検討した。プラスチックごみをロケットに積んで宇宙に打ち上げる解決法を考えたグループは、実現不可能な部分を書き出し、一つ一つ精査した。
R3 12 1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習でわかったことや自分たちの解決法について、保護者や小学校6年生を招いての学習発表会、鳴門市立図書館での掲示物の展示、環境学習フォーラムでの発表、新聞投稿という4つの場で発表した。 ・掲示物は、模造紙5枚にまとめた。掲示物には、プラスチックの歴史や役割、汚染の実態、解決法を掲載した。また、プラスチックごみ問題を解決するための自分たちが日常的にできることを一人ひとりが考え、宣言文を書いた。 ・徳島環境学習フォーラムで学習した成果を発表した(担当教諭による発表に変更)。 ・フォーラムや図書館の来場者からの感想や意見をもとに学習を振り返った。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめとして、500字程度の環境に関する意見文を書いた。意見文は、環境問題について、森林伐採や地球温暖化など、プラスチックごみ問題に限らないより広いテーマで書いた。